



一人一人が安心して自分のよさを発揮できる学校

武蔵野小だより



全力で取り組んだ運動会

先週の運動会では、事前の健康観察や当日の応援等へのご協力ありがとうございました。また、PTA除草ボランティアの皆様には校内の環境整備にもお力添えいただき感謝申し上げます。

3部制の運動会は初めてでしたが、どの学年もすばらしい競技、演技を披露してくれました。また、各色応援団長をはじめ応援団員の子もたちも運動会を盛り上げてくれました。練習期間も短く、種目も少ない運動会、思い通りにいかなかったこともあるでしょう。しかし、できることに精一杯取り組む経験が大事であり、これを今後の生活にも生かしてほしいと願っています。

全員が手に赤いタオルを持ち「身体接触しない組体操」に挑戦した6年生



感染症に関する差別・偏見の防止に向けて

10月14日、大東市民センターで大東地区子どもサポート委員会が開催され、冒頭に委員長のあいさつがありました。「コロナにかかった人が悪い人のように扱われることはおかしい。誰が好んでこの病気にかかるでしょうか。」そう力強く話されたことが印象的でした。感染防止策を施した上で通常に近づける方向で社会全体が動く今、誰もがコロナに感染する可能性があります。同時に誹謗中傷や差別の被害・加害に関わる可能性もあり、「その時のこと」を考えておくことは重要に思います。

こうした状況を踏まえ、先月、全学級で特別の授業を実施しました。道徳では感染者とされいじめが起こる例などを取り扱いました。また、特別活動では養護教諭からウイルスに関する話を聞き、各学級で「病気、不安、差別」などについて話し合いました。子どもたちの多くは、コロナに感染した人への差別や偏見などをより身近な問題として捉え、考えることができたようでした。しかし、このことは一度学べば終わりというものではありません。切実で重要なこの問題について、ご家庭でも親子共通の話題とし、話し合っただければと思います。なお、この件については、本校PTA成人教育委員会でも「スマイルチャレンジ宣言 WITH コロナ」としてすばらしい取組を進めていただいています。月末配付のお便りをご覧ください。

まわりの人がコロナにかかってしまったら、自分は
かかりたくないからさけてしまうと思います。
でもかかった人は、わるくないのにさけられたり
いやからせをされるとかなしくなってしまう。
私はだれがかかっては、でもくべつをたくありません。
今私たちができることをしていきたいです。

人は、出口が見えないと、心が苦しくなるということに気が
きました。なので私は出口の見えないコロナだけれど、そう
いうときこそ、はげまし合ったり、気持ちを伝えたり、負のスパ
イラルは、少なくなるのではないのかと、考えました。コロナ
は早く終ってほしいですが、この時だからこそ、できることを見
つけ、がんばりたいと思いました。

世界では、新型コロナウイルスによって、差別や人々の不安とい
うのが問題になっているなかで、誰にも不安があるし、その不安
を人にするのは良くないことです。先生の言うとおりに、
他人を悪くするのは良くありません。なので、みんなも
前へ進むように感染対策をしっかりして、誰もが笑
える世の中にしたと思います。

〔児童作文〕 上から3年生、5年生、6年生

ほめて認めて、叱って諭し、また、ほめて伸ばす